

やまなみ

2014
冬
Vol.10



特集
記事

**相談支援事業本格始動！
～長野県社会福祉事業団の取り組み～**

連載
記事

事業所リレートーク
チャレンジアクション 利用者の「お楽しみ倍増」を目指して
つづれ福祉 地域との懸け橋
トビックス／人事異動／プレゼント

祝! 2020 東京オリンピック・パラリンピック 開催決定!!

写真：事業団役員室からビッグハット（長野五輪アイスホッケー会場）越しに飯縄山（右）・高妻山（中央奥）を望む



**新年明けまして
おめでとーございます**
長野県社会福祉事業団理事長 辰野 恒雄

新しい年を迎えて、皆様には心豊かに出発されていることとお喜び申し上げます。

昨年は天候異変で大変な年でした。世界各地に大きな災害を引き起し、身の毛も立たず思いました。今年は穏やかな年であってほしいと願うばかりです。

当事業団は昨年度「第2次長期構想」を策定し「信州の自然を愛し、ゆったりとした暮らし、ともに紡ぎます」をスローガンに「障害者総合支援法」や、「長野県障害者プラン2012」に沿いながら、多様化するニーズに正しく対応し、地域から信頼される団体であり続けることを目指して各種事業を展開しているところです。その一環として、昨年夏に行った「第2回駒ヶ根高原ふくしセミナー」には700人を超す人が集まり、「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をテーマに当事者参加型のイベントを企画して地域の方々と一緒に堪能しました。中でも「信州駒天駅伝大会」には伊那養護学校や地元小学

生チームを始め計9チームが参加して賑わいました。箱根駅伝とまではいかなかったも、地域の季節の移ろいを告げられるほどまでにこのイベントが地域に根付いたらいなと思えます。今年も6月に第3回目の開催を予定しておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

南北に長く、広い県内に点在する19の事業所は、5つのブロックに分かれ連携を密に取り合うことにより機能の拡散を防ぎ、その地域の社会資源として貢献できるような努めています。

今回の「やまなみ」では相談支援事業を特集しましたが、地域の社会資源を的確に把握し、有効に生かして支援につなげていくことが相談支援においても必要な姿勢だと考えます。冒頭にも述べましたように、その積み重ねが地域の信頼を得られることになり、地域の中での事業団の存在感と役割がより増していくこととなります。関係者の皆さまの一層のご指導とご協力をお願いいたします。



相談支援事業本格始動！

～長野県社会福祉事業団の取り組み～

はじめに

「障害者自立支援法（平成25年4月から障害者総合支援法）」及び「児童福祉法」の改正に伴い、平成24年4月から相談支援事業が「特定相談支援事業」、「一般相談支援事業」、「障害児相談支援事業」に再編「表1」され、平成26年度末までに原則として障害福祉サービス等を利用する全ての方の「サービス等利用計画」（注1）作成が必須となりました。このため「サービス等利用計画」を作成しなければ、基本的に障害福祉サービスを利用することができなくなります。

こういった中、計画相談等では相談支援専門員の「業務量の多さ」や「人手不足」、また一般的な相談支援では「委託費の地域格差」等、様々な課題を耳にします。相談支援事業は利用者の人生を左右する重要なプロセスであり、その本質を捉えて業務にあたらなければ、制度のための形式的な作業になりかねません。

今回は相談支援事業の概要と当事業団の取り組み状況を紹介します。

（注1）障害児相談支援事業においては「障害児支援利用計画」

〔表1〕平成24年4月からの相談支援体系

区分（実施主体）	サービス内容	対象者
一般的な相談支援 （市町村（注2））	日常生活等に関する相談、 情報提供等	・全ての障害児者、家族等
計画相談支援 （指定特定相談支援事業者）	サービス等利用計画を作り、 モニタリングを行います	・障害福祉サービスを申請した障害児者等 ・地域相談支援を申請した障害者
地域相談支援 （指定一般相談支援事業者）	地域移行・地域定着支援計画 を作り、病院または施設等からの地域移行・定着を支援します	・入院または施設等に入所している障害者等 ・地域生活を継続するため緊急時の支援が必要な障害者等
障害児相談支援 （指定障害児相談支援事業者）	障害児支援利用計画を作り、 障害児の通所サービスを支援します	・障害児通所支援を申請した障害児

（注2）指定相談支援事業者に委託可能

長野県社会福祉事業団における 相談支援事業の取り組み

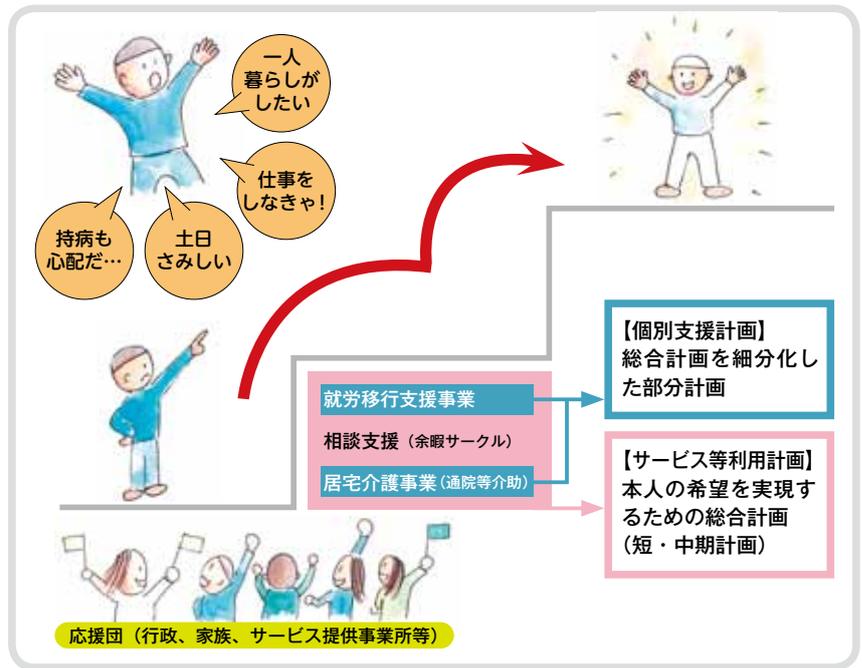
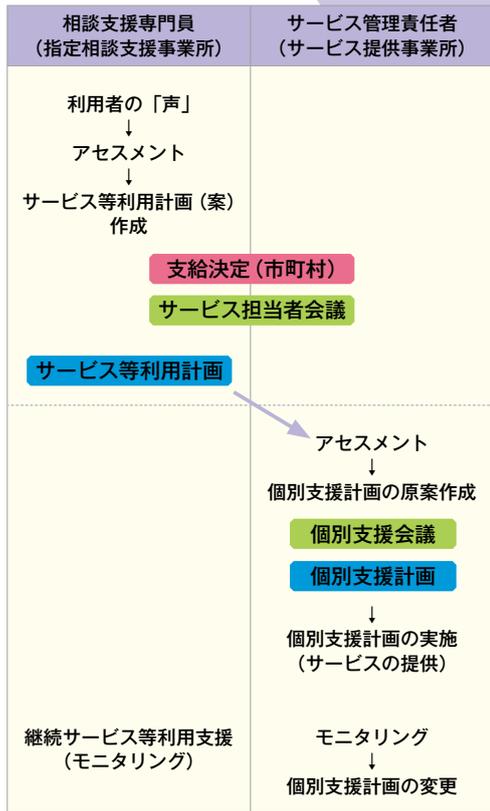
長野県社会福祉事業団では平成13年に「障害児（者）地域療育等支援事業」を長野圏域の水内荘（平成16年から歩楽里）で開始して以降、平成15年には上伊那圏域でも事業展開し、現在では10ヶ所の事業所で相談支援事業を行っています。「表2」〔図1〕

サービス提供の「見える化」「オープン化」

「サービス等利用計画」と「個別支援計画」の関係

福祉サービスの利用にあたっては「サービス等利用計画」と「個別支援計画」が必要となりますが、この2つの計画は非常に密接な関係にあります。利用者のニーズに定める「サービス等利用計画」が相談支援専門員によって作成され、それに基づきサービス提供事業所のサービス管理責任者が「個別支援計画」を作成します。「表3」この2つの計画を「1つの踏み台（ステップ）」と捉え、行政をはじめ地域の関係機関、サービス提供事業所などが協力体制を取り合い、利用者ニーズの実現に向けて支援する仕組みが体系的に構築されています。「図2」

[表3] 「サービス等利用計画」と「個別支援計画」の関係

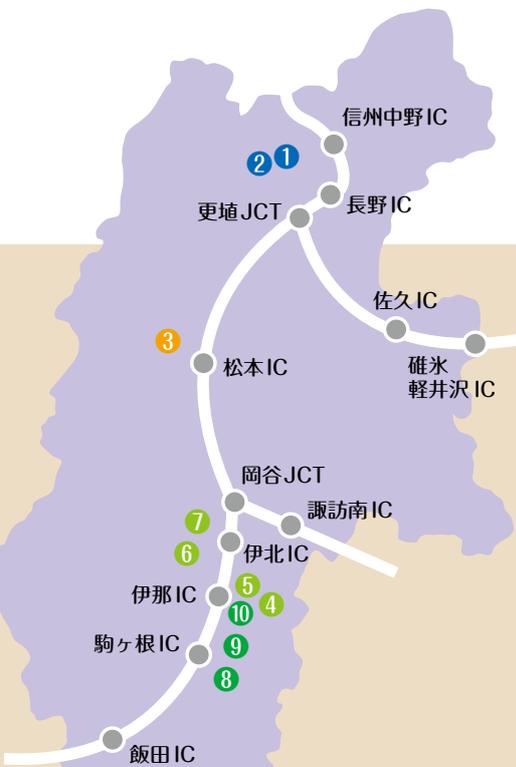


[図2] 利用者ニーズの実現に向けて支援する仕組み

[表2] 長野県社会福祉事業団が運営する相談支援事業所

No	事業所	所在地	受託 (注3)		指定	
			一般	計画	地域	障害児
①	水内荘	長野市		○	○	
②	長野圏域障害者総合支援センター「歩楽里」	長野市	○	○	○	○
③	松本ひよこ	松本市		○	○	○
④	ほっとグループホーム伊北	伊那市		○		
⑤	伊那ゆいま～る	伊那市		○		
⑥	ほっとワークス・みのわ	箕輪町		○		
⑦	辰野町障害者就労支援センター	辰野町		○		
⑧	西駒郷駒ヶ根支援事業部	駒ヶ根市		○	○	
⑨	西駒郷宮田支援事業部	宮田村		○	○	
⑩	上伊那圏域障害者総合支援センター「きらりあ」	伊那市	○	○	○	○

(注3) 「歩楽里」は長野市から、「きらりあ」は上伊那2市6町村から一般的な相談支援を受託



[図1] 相談支援事業所配置図

上伊那圏域障害者総合支援センター「きらりあ」

春日 聡
(精神保健福祉士)
相談実績 2年



担当業務 一般的な相談支援（上伊那2市6町村から委託）、計画相談支援、地域相談支援、障害児相談支援

08:30 センター出勤、引継ぎ、メール等

10:00 相談業務①
(計画相談)



12:00 移動中の車内で
昼食

13:00 相談業務② (地域相談)



14:00 電話応対
(支援会議調整)

15:00 移動中に
コーヒータイト

16:00 相談業務③ (障害児)

17:00 センター戻り、引継ぎ、メール等

18:00 退院直後の方と面談
(訪問)



19:30 終了、
自宅直帰

長野圏域障害者総合支援センター「歩楽里」



木下香織 (社会福祉士)
相談実績 3年

担当業務 一般的な相談支援
(長野市から受託)

長野県では全国に先駆けて相談支援を行う「障害者総合支援センター」を障害保健福祉圏域(10圏域)ごとに設置しており、当センターは長野圏域にあるセンターの一つで主に長野市の方の相談に応じています。

私は、利用者の「よろず相談窓口」として、個々のニーズに合わせて様々な機関等を紹介する「つなぎ役」として、相談に来られた方々の暮らしができるだけ希望に近づけるよう相談業務に努めています。

電話、訪問、会議、記録整理等、日々山積する業務に追われる毎日ですが、相談ケースを一人で抱えることのないよう、相談支援専門員同士のつながりはもちろん、関係機関で思いを共有できるような場を積極的に作っていきたいと思います。



相談支援専門員のお仕事紹介

相談支援業務に携わっている職員は訪問等で地域に出ていることが多く、他の職員から具体的な業務内容が見えづらいのではないかと思います。そこで相談支援専門員の役割や主な業務について、長野と上伊那を例に紹介します。

これから

〜まとめにかえて〜

冒頭で述べたとおり、相談支援事業は様々な課題を内包したまま始動していますが、当事業団では障害福祉サービスの礎となる「相談支援事業」の重要性を今まで以上に認識し、平成25年度から新たに事業団職員研修の中に「相談支援専門員実務研修」を加えました。この研修は年3回のカリキュラムで構成し、27人の相談支援専門員が相談支援業務に関する基本姿勢や面接技法等を学び、将来的に各圏域で相談支援事業の中核を担う人材となることを目指しています。

1回目の研修(5/31)では長年相談支援の現場を経験し、長野県の介護支援専門員研修等の講師も務める小島健一所長(歩楽里)と唐木昭専門員(きらりあ)が自らの経験談も踏まえ「相談支援専門員の公平・中立な立ち位置」や「地域ネットワークの構築方法」等について講義するとともに、「相談支援専門員こそ相談上手なれ」等、具体的にアドバイスしました。

また、2回目(9/9)ではロールプレイ演習を通じて、意思決定支援に重きを置いた実践的な研修を行



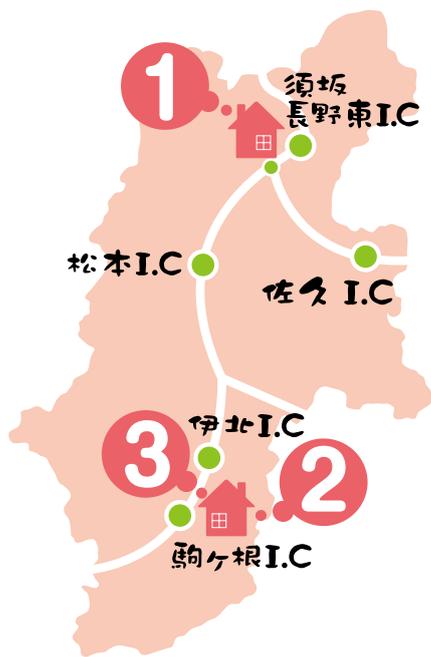
い、最終回となる3回目(2月予定)は、全員で事例検討を中心に理解を深める予定です。

研修を通じて相談支援業務の重要性を理解できたことはもちろん「共通の悩みを抱える仲間がいて心強く感じた」といった意見が数多く出されました。また、日頃の業務を通じて「困難なケースに関わる中で、新たな気づきや横のつながりが生まれている」「計画作成等を通じて生まれた新たなネットワーク自体が利用者の今後の地域生活を支えるのではないか」といった前向きな意見も聞かれました。

まずは、職員個々のレベルアップを図りながら人材育成を進めるとともに、行政や関係機関をはじめ他法人のサービス提供事業所等との連携・協力を深め、事業団の相談支援事業所並びに相談支援専門員が地域の重要な社会資源となるように努めたいと思います。

(中村)





① 長野市地域活動支援センターこぶし

～和・楽・活を求めて～ 利用者数 16人

共同作業所から地域活動支援センターに移行して3年目となります。この間、一貫してコンセプトは表題の如く「日々仲良く、楽しく、生き活きと暮らそう」。できるだけ型にはめない言わば手作り感を大切に活動に注力しています。

今年度は蚕の飼育、郷土食「こねつけ」作り、出前カラオケなど今までになかった活動に取り組みました。中でも最たるものは8月のロビーコンサートでの合唱の発表披露です。これまでの観る・聴く立場から一転、出演する側となり1ヶ月余り毎日練習を続けました。老若男女、三障害混同総勢16名の「合唱」となるまでの道程、何よりも利用者さんが楽しくできたことが、結果において沢山の拍手に繋がったのではないのでしょうか。
(仲俣)



ピックアップ! 西駒郷

平成23年度に新事業体系に移行した「西駒郷」の取り組みを、シリーズで紹介します。

② 西駒郷宮田支援事業部 わーく宮田

～仲良く楽しくいきいきと 紬縫製班～ 利用者数 15人



わーく宮田「紬縫製班」は、防衛省の作業服、迷彩服や都庁清掃局の作業服等、公的なものの受注がほとんどですが、それらのアイロン掛けやミシン掛け等部分品加工と糸屑取りを主に行っています。東日本大震災により受注が続き、この2年半はとても大変でした。納品に追われ忙しい毎日ですが、やりがいのある作業です。

また、昔から伝統ある機織りでは、マフラーやランチョンマット等を糸の染めから製作し、忙しい受託作業の傍ら自主活動として取り組んでいます。各イベントや、ベルシャイン駒ヶ根の常設店や市民活動支援センター「ばとな」へ出店販売を行い、また見学の方にも見て

いただく中で、世界に一つしかない紬縫製の作品をたくさんの皆様に提供しています。ぜひ一度見に来て下さい。
(肥野)



③ 西駒郷宮田支援事業部まつば支援課・えこ宮田

～自主性を重んじた支援とエコ活動～ 利用者数12人・19人



「まつば支援課（施設入所支援）」には一般就労等、社会経験が豊富な利用者が多く、自治会活動が活発に行われています。今年度も一泊旅行の行き先や食べたい物について話し合い

を行い、東京タワーや大江戸博物館の見学を決めました。自分たちで決めた分楽しみも倍増です。また地域生活移行という全員の目標に向かってSST (Social Skills Training) を取り入れ、日頃の良かった場面の振り返り、まずは気持ち良く生活することを目指しています。

「えこ宮田（生活介護）」では、まつば支援課に隣接する畑で大自然を満喫しながら農業体験やエコ作業を行っています。今秋も焼き芋焼酎『なかなかてえへんだ』や焼き芋に使う黄金千貫を全員で収穫しました。また、季節ごとに取れる野菜を給食の食材として提供しています。室内ではリサイクル品を使った作業を中心に、自然に配慮したエコな活動をこころがけています。
(森岡)



長野ブロック・サークル一覧

音楽

太鼓・踊り ◆ 21人

太鼓は基礎打ちの練習、踊りは民謡に合わせて身体を動かしています。



カラオケ・音楽鑑賞 ◆ 29人

カラオケに合わせて一人ずつ歌う曲と全員で歌う曲を織り交ぜています。重度の方も一緒に参加して楽しんでいます。



スポーツ ◆ 10人

音楽メンバーの希望により派生。球技を中心に活動しています。



演劇

演劇 ◆ 18人

月2回のサークル活動日だけでなく、公演直前は放課後練習的に水内荘体育館で活動しています。



長野ブロック（6事業所／利用者約130人）では、「事業団第2次長期構想」に基づき、「利用者お楽しみ倍増計画」をコンセプトに、利用者に充実した余暇活動を提供できるように検討委員会を組織し、サークル活動における支援体制や活動メニューの検討を重ねてきました。

利用者の「お楽しみ倍増」を目指して

長野ブロック・サークル活動始まる

創作

創作 ◆ 52人

貼り絵やキャンパールの創作、おやつ作り等の2グループに分かれて活動しています。



その結果、平成25年4月に「音楽・演劇」の三つの大きなグループを編成し、毎月二回、第一・第三木曜日の午後にそれぞれ独自の「お楽しみ」活動を展開しています。

演劇サークル「空」の活動

演劇サークル「空」は、他のサークルに先駆けて2年前に立ち上げ、週1回のペースで活動をしてきました。グループホームに入居しているメンバーを中心に、20歳から最高齢者76歳、平均年齢が58歳の高齢者劇団です。舞台表現の中で、「演劇」は「楽器演奏」や「ダンス」等に比べ、舞台上に立つ人の能力や適性に合わせて楽しく時間を紡ぐこと（自己実現）ができるメリットがあります。

昨年の11月8・9日（3回）、水内荘体育館にて第一回公演「朱鷺（トキ）」を行い、朱鷺が舞う舞台上に300人を超す観客の皆様の大きな拍手の中、大きな交流となりました。

演劇サークル「空」メンバー

中島 松子さん (76歳)

公演に向けて一生懸命練習していたので大変でした。演劇の中の場面では「ダンス」が特に楽しかったです。「ダンス」の場面で体を動かしたり腰を振ったりするのが難しいけれども面白かったです。

これからもこのような活動があったら良いと思うので続けていきたいです。



◆ サークル活動を通じ、利用者も職員も関係なく一生懸命になることができ、時には真剣に、時には笑顔で活動する機会を持ったことを大変嬉しく思います。また長野ブロック内の各事業所が連携することで「事業所間交流」という意味においても、サークル活動の果たす役割は大きいと思います。

◆ 今後も利用者の希望を聞きながら、「お楽しみ倍増」目指して充実した活動が継続できるように支援したいと思えます。

◆ (伊東)

地域との懸け橋

～西駒郷自主製品の常設店 ベルシャイン駒ヶ根店
「コミュニティプラザ」～



平成24年11月2日、ベルシャイン駒ヶ根店内に西駒郷の自主製品を販売するショップがオープンしました。今回の出店に際しましては、渡辺店長を中心に、社員の皆様に並々ならぬご協力を賜り、場所も食品レジに近い好位置を提供していただき、製品を並べ販売するには十分すぎるスペースとなっております。

このスペースは「コミュニティプラザ」とネーミングされ、当所のみならず、伊那養護学校の製品の販売も始まりました。



ここでは利

用者の活動の様子、作業風景なども写真バ

ネルにして展示しており、地元住民の方々が身近なところで西駒郷に対する理解を深めていただく機会になれば、と考えています。

このスペースの販売に加え、信州まめ匠の豆腐・どら焼き、えこ宮田の農産物も生鮮品コーナーに置かせていただき販売しています。

こういった地域での常設店は、委託販売という形ながら初めての試みです。今後は他の関連団体にも出店を呼びかけ、このショップが西駒郷等福祉事業所と地域の懸け橋になるよう、販売品の充実や展示内容も工夫して参ります。皆様方もぜひお立ち寄りください。
(小澤)



四季、年中行事に合わせディスプレイを交換しています



株式会社ニシザワ
ベルシャイン駒ヶ根店
店長 渡辺 和広様

『ベルシャイン駒ヶ根店』は地域密着型のスーパーストアとして、以前から地域への貢献や地域活性・アピールの場としての存在価値を考えていました。昨年店内を改装するにあたり、情報誌で見た工賃アップ応援宣言の記事から障害福祉施設との関わりを持つことを思いつき、現在、アンサンブル(クッキー)と西駒郷(どら焼き・豆

腐・農産物) それぞれの商品を卸業者と同等に陳列しており、養護学校の木工製品はコミュニティプラザにて出品しております。どれもコンスタントに売れており好評です。また、「コミュニティプラザ」と会議内で名称が決まったスペースを提供し、西駒郷を中心としたテナントショップとして展開することとなりました。今後も地域に密着したお店として『ベルシャイン駒ヶ根店』は多くの方に利用していただけたらと思っています。

ちなみに店長のおススメは、どら焼きの『あんバター』味と『寄せ豆腐』だそうです。これからの時期、寄せ豆腐は電子レンジで軽くチンしてポン酢で食べるのが格別とのこと。ぜひお試しください。

トピックス

第3回駒ヶ根高原ふくしセミナー開催日決定!!



「地域でのより豊かな暮らし創り」をテーマに、講演・シンポジウムやカラオケ大会、駅伝大会等、お楽しみ盛りだくさんの当事者参加型セミナーを宮田村民会館を主会場に来年度も開催します。

平成26年6月27日(金)～28日(土)

参加無料(ごなたでもご参加いただけます)

【基調講演】6月28日(土) 9:30～

テーマ「自然と調和したシンプルな暮らしのすすめ」

講師 ベニシア・スタンレー・スミス
現在、NHK Eテレで「猫のしっぽカエルの手」京都・大原ベニシアの手作り暮らし」が放映中

この楽しいセミナーに多くの皆様のご参加をお待ちしています。

詳細は実行委員会(026-2228-0337)までお問合せ下さい。



人事異動

退職

(平成25年9月30日付)

松本ひよこ

支援員/上野ひとみ

(平成25年12月31日付)

信濃学園

支援員/赤羽志保

おめでとう!

障害者文化芸術祭 絵画部門最優秀賞受賞

9月に開催された第16回長野県障害者文化芸術祭絵画部門で、西駒郷利用者の山口修一さんの作品が、見事最優秀賞に輝きました。



なお、今回の受賞作品を含む優秀作品を県内各地で巡回展示します。平成26年1月に中信、飯田の各地域の2会場で、2月には東信会場で開催を予定しています。詳細は障害者福祉センターサンアップルのホームページからご確認ください。

西駒郷、障害者福祉センターの指定管理者として再指定

平成25年度末をもって現在の指定管理期間が満了となる県立二施設について、昨年10月に指定管理者の指定申請を行った所、11月定例会の議決を得て無事、平成26年度以降5年間の指定管理者として西駒郷、障害者福祉センター(長野県障がい者スポーツ協会と共同申請)とも再指定されました。引き続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひします。

松本あさひ学園

主事兼支援員/金児直哉

サンアップル

看護師/中村直子

事業所間異動等

(平成26年1月1日付)

水内荘

支援課長/小宮山紀道(松本あさひ学園治療支援課長)

長野圏域障害者総合支援センター 歩楽里

所長/小宮山紀道(兼)

みのちグループホームセンター 専門幹/小宮山紀道(兼)

松本あさひ学園

治療支援課長/小島健一(水内荘支援課長兼長野圏域障害者総合支援センター歩楽里所長兼みのちグループホームセンター専門幹)

プレゼント



「わーく宮田」

林産班 合田 成穂 支援員
からのメッセージ



◆丸太プランター

自然な形をできるだけ残し加工した手作りプランターは、他ではない風合いを醸し出しており、ふしや木目など一つ一つに異なった趣があるため、まさにオンリーワンのプランターです。春先にかけてガーデニングを行う際のアイテムとしていかがでしょうか。

サイズは中(長さ約1m・幅約30cm)小(長さ約70cm・幅約30cm)とご用意しております。ただ、木の形状が微妙に違いますので、サイズが多少前後してしまう場合があります。あらかじめご了承のうえご希望のサイズをお選びください。

「わーく宮田」の丸太プランターを抽選で3名の方にプレゼントいたします。

事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号、⑤プランターの希望サイズ(中・小)を記載のうえ、メールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せください。(3月末締切り)

なお、当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。(プレゼントの発送は4月頃を予定しています。)

昨年は2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定に湧き、今年はロシアのソチで間もなく冬季オリンピックが開かれます。ここ長野県での冬季オリンピックから16年。本当に時の経つのは早いものです。

さて、今回は「相談支援事業」にスポットをあてて特集を組みました。長野オリンピックの16年前と現在を単純に比較しても、情報通信技術だけでなく、福祉の世界も時代と共に大きく変わってきているのだと取材を通して実感し、私自身もよい勉強になりました。今回の特集が「相談支援事業」についての理解を深めるひとつのきっかけとなりましたら幸いです。(河原崎)

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。

編集後記



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel: 026-228-0337 fax: 026-228-0310
URL: http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/